

おおいた国際交流プラザ

OITA INTERNATIONAL PLAZA

vol. **34**

2011

La Estación

ラ・エスタシオン

スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるようお願いを込めてつけました。

寄稿 国際交流は何のためにするのか

第4回「東日本大震災から私たちは何を掴み取るのか」……1-2

自治体の紹介 由布市……3

団体の紹介 大分人権教育ワークショップ研究会……3

国際的に活躍している人々の紹介……4

ギトンガ 佳子氏

JICAデスク大分からのお知らせ「協力隊NAVI～青年海外協力隊経験者と語ろう」……4

Event Calendar……5-6

私たちの声を聞いてください!……7

吉武 ロドラ氏

Information……7

イベントの報告……7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

「オーケーニクスブー城」(フランス・アルサス地域圏)
写真家:グリュツマハー・ゼンケ

第4回

「東日本大震災から私たちは何を確かみ取るのか」

今年度は「国際交流は何のために行うか」と題して、様々な視点から国際交流の意義と目標について解説していただきます。寄稿者は、国際関係論、日本学や歴史学等、色々な分野の専門家と協力する予定です。今回は、特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪の代表理事 田村 太郎 氏の寄稿です。

歴史をふりかえると、あの日を境にして世の中の流れが変わったと思えるような日がある。とくに自然災害は人々の生活に大きな影響を与えるが、東日本大震災がもたらす変化はこれからも日本だけでなく、世界に大きな影響を与えるにちがいない。

1995年1月17日の阪神・淡路大震災も、その後の社会に大きな影響を与えた。多文化共生という概念や、ボランティアやNPOによる社会参画、インターネットや携帯電話を通じた情報提供は、あの日を境に普及し始めた。東日本大震災で被災地は大きな被害を受けたし、被災地以外でもさまざまなダメージを受けたわけだが、これを無にしてしまうのではなく、私たちは新しい「何か」をつかんで這い上がらなければ、亡くなった方々にも申し訳が立たない。

多文化共生に携わる人々には、東日本大震災をより強固な多文化共生社会の形成をめざした活動へのエネルギーに転換して欲しいと、私は願っている。東日本大震災やその後の原発事故による不安から、震災直後から数週間は一時的に帰国する外国人が増えた。新聞などでも報道され、「外国人は帰国した」「日本から出て行った」というイメージを持った人も多かったと思う。しかし実際は出国した人はそれほど多くなく、また一時帰国した人も再入国している。職場を流された被災地の研修・技能実習生や、新規の来日を躊躇する留学生は存在するし、観光客の回復も歩みは遅い。しかし、震災後も地域に残って共に救援活動にあたり、まちの復興に参加している外国人住民も多くいる。

また、全国各地から被災地に駆けつけた外国人による支援活動も目立った。各地の日系ブラジル人がトラックに食料を積んで被災地に出かけたし、イスラム教の団体も津波の被害が大きかった地域で炊き出しを行った。阪神・淡路大震災でも外国人住民による支援活動はみられたが、今回はそのときにも増して多くの外国人が被災地に駆けつけ、「お世話になった日本に恩返しをしたい」という声もたくさん聞いた。阪神・淡路大震災から16年の間に多文化共生社会は確実に前進し、多様な担い手が国籍や文化のちがいを超えて助け合う風景があちこちで見られたのは本当にうれしかった。こうした事実を広く共有し、日常の多文化共生社会の重要性をさらに多くの方々に理解してもらえるよう、私たちは汗を流さなくてはならない。



田村氏が石巻で撮影したボランティア募集のチラシ

▶ 外国人の被災状況と今後への備え

東日本大震災の死者・行方不明者数は約2万人で、この原稿を書いている10月31日現在でも、まだ確定できていない。外国人の死者は判明しているだけで19名という。このほか海外からも行方不明者の照会が来ているようだが、安否が確定するまではまだ時間がかかるだろう。

阪神・淡路大震災では174人の外国人が犠牲となった。阪神・淡路大震災の死者は約5,500人^{※1}で死者に占める外国人の割合は約3%にのぼるが、東日本大震災では0.1%未満で外国人の被害の少なさが際立つ。阪神・淡路大震災は連休明けの早朝で、死者の多くは倒壊した自宅での圧死だった。一方、東日本大震災の死者の多くは津波にのまれた溺死。発生時刻が平日の日中だったので、外国人住民も多くは仕事だったことが避難を容易にさせ、死者がきわめて少なく済んだ要因だろう。しかし、もし東日本大震災が早朝や深夜、あるいは土日に起きていたら、今回のように津波警報が伝わって迅速に避難できたかは疑わしい。実際、東日本大震災の約1年前、平成22年2月27日に発生したチリ沖地震で太平洋沿岸に津波警報が出された際は土曜日で、日本人も含め避難の遅れが指摘されている。



南三陸町で特産だったタコをモチーフにした「文鎮」の加工場

外国人は障害者、高齢者、乳幼児、妊婦等と並んで「災害時要援護者」とされ、各自治体で避難支援のための計画の策定が求められてきた。都道府県などではすでに策定されているところもあるが、東日本大震災では十分に機能したとは言い難い。また、行うべき項目だけが列挙され、誰がどのように支援を行うのかがあいまいな計画も少なくない。災害に備えた要援護者の避難支援について、自治体はすぐに計画を具体的で実践的なものにすべきである。

外国人は他の要援護者と異なり、適切な情報を得ることができれば自力で避難が可能であるうえ、支援する側に回ることもできる。日頃から訓練を繰り返して互いの所在を知り、災害時に助け合えるコミュニティづくりを行うことは、多文化共生社会の形成にもつながっていく。こうしたことは阪神・淡路大震災以来、筆者をはじめ、様々な人が述べてきたことであるが、東日本大震災で十分に活かされていなかったことが悔やまれてならない。

▶ 日本の復興は「多文化共生」から

震災直後の混乱で、一時的ではあったが外国人が帰国し、各地で少なからぬ影響が出た。中国人研修生が帰国した福島や茨城の工場や農場では、製産や収穫が再開できず、事業に影響が出た。東京や大阪のコンビニエンスストアでは、留学生のアルバイトが帰国したために深夜営業ができなくなった。外国人観光客の激減で閉鎖したホテルや土産物屋も少なくない。外国人の存在は、多くの日本人が思っていた以上に、様々な分野に広く、また深く根付いていたことに私たちは気づいた。

国籍や文化のちがいを超えてともに地域をよりよくしていこう、みなで工夫して新しい地域を築いていこうとする地域と、他者を排除して閉じこもり、今ある資源を奪い合うような地域とに、これからの世界は二極化していくだろうというのが筆者の予測である。被災した日本のみならず、世界の各地で経済や政治が混迷している。多文化共生にいち早く舵を切った地域には明るい未来が、そうでない地域には崩壊の危機が迫っている。東日本大震災を機に、多様な担い手が手を取り合うことの重要性に気づいた私たちが、これからどんな選択をすべきかは明白である。

※1：阪神・淡路大震災の死者数は約6,500人とされているが、避難所や仮設住宅での死者や過労、事故などの「震災関連死」が約1,000人あった。圧死など、地震が直接の影響でなくなった人は約5,500人で、外国人死者174人も直接死の数字。いずれも兵庫県警調べ。



Profile

田村 太郎 (たむら たろう)

兵庫県伊丹市生まれ。高校卒業後、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米などを旅する。在日フィリピン人向けレンタルビデオ店で勤務等を経て、1995年1月阪神大震災直後に外国人被災者へ情報を提供する「外国人地震情報センター」の設立に参加。同年10月、「多文化共生センター」への組織変更に伴い事務局長に就任、2004年3月まで同センター代表を務めた。総務省「地域における多文化共生推進研究会」構成員として、2006年3月に同省がまとめた「多文化共生推進プラン」の策定に参画するなど、外国人が直面する課題対応のための地域社会変革の仕組み作りを提案し続けている。

由布市における国際交流について

由布市総務部総合政策課 主幹 衛藤哲男

由布市は外国人観光客が多く訪れる由布院温泉を有し、いわゆる価値観や習慣によるインバウンド問題への対応など国際交流への取り組みが重要な課題となっています。そこで今後の由布市における国際交流の方針を検討するため、市民有識者による由布市国際交流検討委員会を立ち上げ、理念や施策について話し合いを続けてきました。

まず、由布市の国際交流における理念は「多様な文化や価値を持つ私たちの由布市は、ふるさとの歴史や文化、自然を大切にしておもてなしの心を磨きながら、いろいろな人が自由に交流できるまちづくりを進める」です。

また、理念に基づく施策の柱として①多文化共生社会を担う人材の育成②市民の国際意識の高揚③産業・技術や文化・スポーツの国際交流の強化④幅広い国や地域との民間交流の推進と、4つを挙げています。

特に由布市は民間レベルで行われている国際交流事業をサポートすることに重点を置き、平成23年度はYUFU交流推進事業により市民団体の国際交流活動を支援し、1団体あたり50万円を上限に活動費を補助。対象となった活動事例をあげますと、自転車大会(ツール・ド・湯平)を通じての大韓民国江陵市、中華民国との国際交流。人材育成ゆふいん財団の、ゆふいん〜アジアふれあい交流子ども使節団事業に伴う韓国水原市 清明中

学校との交流。ゆふいん源流太鼓の中華民国への和太鼓普及活動となっています。

また今後、APU立命館アジア太平洋大学や別府大学など、大学との連携事業の中で留学生を交えた交流事業も取り入れていく予定です。



ゆふいん〜アジアふれあい交流子ども使節団事業



ツール・ド・湯平

大分の国際交流団体の紹介

大分人権教育ワークショップ研究会

「多文化共生社会づくり」に無関係な人はいません。学校でも、医療や福祉の場面でも、地域社会でも、多様な背景や経験を越えて協力して支え合うことが必要です。それは海外に文化的背景を持つ方も日本人も同様です。わたしたち一人ひとりが「多文化共生社会づくりのためのスキルをのばす」ことが「多文化共生社会づくり」の鍵です。

しかし、外国籍のお子さんが在籍するクラス、外国籍保護者のいるPTAの集まりや地域の集会などで、どうすれば誰もが安心して参加し、お互いの悩みや不安を相談し、助けあえる雰囲気をつくれるのか、災害時にどのように助け合えるのか、具体的な方法がわからないという方もたくさんいらっしゃいます。

ワークショップ研究会は、人権、環境、国際理解、コミュニケーションなどのテーマ学習に取り組んでいます。「多文化共生」に関しては、おもに人権教育の観点から、背景の違う人に対する偏見に気づき、解消するためのプログラムに取り組んできました。

また、参加型学習と呼ばれる方法を活用していますが、多様

な背景の人が集まり話し合う場面に応用できる工夫や方法もたくさんあります。ちょっとした学び合いの工夫を取り入れるだけで、言葉や文化的背景が違って参加者同士がつながり、共感し、お互いの経験から学び合う雰囲気や姿勢が生まれます。自分と相手の価値観を尊重するコミュニケーションする方法も取り入れ、参加者同士の交流を深めていきます。小さな一歩でも、普段の人間関係づくりの積み重ねが、本当に困った時に支え合うための鍵となることを期待しています。

今年度は、いっしょに「多文化共生」のテーマに取り組んできた日本語学習支援教室や国際交流支援団体の方々と、「子育てサポーターのための多文化こども福祉講座」を企画しました。教育、医療、福祉、国際交流、人権関係者はもちろん、地域社会の一人ひとりが多文化共生スキルを伸ばし、誰もが安心して日本社会で暮らすための支援の方法やアイデアを学び、それぞれの現場でできること、ネットワークで協力して取り組むことなどを計画しています。ご関心のある方は、ぜひ多文化福祉ネットワークにご参加ください。

大分人権教育ワークショップ研究会 足立恵理

■〒879-7761 大分県大分市大字中戸次5580

■TEL 090(5085)9860 ■FAX 097(597)1706

■MAIL eri-a@k8.dion.ne.jp

■<http://esdwsolta.exblog.jp/>

人物の紹介

～国際的に活躍している人々の紹介～

ギトンガ・佳子

自分探しの為に、外国に長期住んでみたいと思い、青年海外協力隊に応募しました。

平成4年に新規でケニアの専門学校の陶芸学部へ派遣が決定しました。

ナクルは赤道直下にもかかわらず、高地なので朝晩は冷え込み、毛布が必要でした。小学生は学年ごとに色違いのセーターが制服に含まれていました。雨季と乾季があるケニアでは、水不足は大きな問題でした。

陶芸学部のワークショップにも、水をドラム缶に保存しなければなりません。驚いたのは、手作りの蹴ロクロと電動ロクロが、蜘蛛の巣と埃で覆われていて、粘土がどこにも無いことでした。実習がほとんど行われていませんでした。私は、先ず生徒に作る喜びを知ってもらうために、日本のように粘土は買えないので、粘土を作る毎日でした。生徒とトラックの荷台に乗って、粘土を沼地に採取に行ったこともあります。

作る喜びを知り、作品を家に持って帰り、使ってもらう喜びを知った生徒達は、よく粘土の取り合いになりました。4ヶ月延長し、私が受け持った生徒の卒業を見送り平成6年12月に帰国しました。

今回ご紹介する人物は、日本ケニア親善協会を立ち上げ、フェアトレードの推進を進めるギトンガさんです。



ケニア料理教室



トマト・シチューとチャパティ

時間の流れがゆっくりに感じられ、心が豊かなケニアの方が、私には合っている気がしたので、再度ケニアを訪問しました。ケニア人の夫と結婚後、長男を出産し、日本に帰国しました。

5人目の子供が3才になり、社会復帰を考えるようになり、自分の経験を通じて、人の役に立つ仕事をしたいと考えました。5月が世界フェアトレード月間にも関わらず、大分市では何のイベントも予定されていませんでした。そこで、日本ケニア親善協会を立ち上げ、フェアトレードの推進とケニアの日本のNPOの方が来日時に、新聞や、テレビに告知や取材を依頼したり、講演会や料理教室の開催、フェアトレードケニア紅茶の販売をしています。今は、人脈も少なく、実績も無いので助成金を申請することもできません。でも、ケニア紅茶を通じてフェアトレード(国際貢献)の意義を一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。

JICA デスク大分からののお知らせ

今回の「JICAデスク大分からののお知らせ」では、毎月第2水曜日にiichiko総合文化センター1階アトリウムプラザで実施している「協力隊NAVI～青年海外協力隊経験者と語ろう」についてご紹介します。

「協力隊NAVI～青年海外協力隊経験者と語ろう」とは、青年海外協力隊を始めとするJICA海外ボランティアの個人相談会で、月に1回定期的に行われています。大分には青年海外協力隊の経験者が集まって組織された団体「大分県青年海外協力協会」があり、その団体が中心となって「協力隊NAVI」を運営しています。西サモア(現：サモア独立国)での協力隊経験をスタートに、難民キャンプでのボランティア活動やヨルダンでのシニア海外ボランティア活動に従事したことのある方が専門の相談員となっており、ほかにもアフリカ、中南米、アジア、大洋州などの協力隊経験者も相談員として参加しています。「協力隊には興味があったけど自分の資格や経験では不十分ですよ…?」という相談から始まって、何度も協力隊NAVIで相談を繰り返すうちに応募できる案件を見つけて挑戦した結果、見事合格した方もおり、相談に乗った協力隊経験者と喜びを分かち合う姿もありました。協力隊NAVIでは、協力隊活動でつらかったことなど本音トークでの話が聴けたり、めったに訪問できない国の生活の話が聴けたりも



協力隊NAVIの様子

します。協力隊NAVIの後には協力隊経験者と懇親会で盛り上がる相談者の方もいます。予約不要・入場無料ですので、ぜひ協力隊NAVIに参加してみてください。

「協力隊NAVI～青年海外協力隊経験者と語ろう」

日程：12月14日(水)、1月11日(水)、2月8日(水)、3月14日(水)

いずれも18:00～20:00

場所：iichiko総合文化センター 1階アトリウムプラザ

※「青年海外協力隊」のノボリが目印です！

※「大分県青年海外協力協会」についてはHP(<http://ooca.org/>)をご覧ください。



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ

〒870-0029 大分県高砂町2-33 iichiko 総合文化センター地下1階 国際交流プラザ内
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052 E-mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp



よりよい明日を 世界の人々と

DEC 12 ▶▶▶ JAN 1

プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

カウンセリング

場所：iichiko総合文化センター B1F おおいた国際交流プラザ
お問合せ先：TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052
E-mail：in@emo.or.jp

中国語無料相談

毎週火曜日と木曜日
時間：火曜日：13：00～16：00
木曜日：10：00～13：00
会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
相談員：児玉 文玉（こだま うえんゆう）
相談料：無料
※県内在住中国語圏の方のための相談室です。

タガログ語無料相談

毎月第1土曜日と第3火曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要 相談料：無料
相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）
※悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

入国・在留国籍手続無料相談

毎月第1日曜日
主催：ライフサポート大分
時間：13：00～16：00
会場：国際交流プラザ
相談料：無料 予約：必要
対応言語：日本語・英語
※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

在住外国人のための無料相談

毎月第3水曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
※ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、2日前までに要予約。
相談員：伊藤精（行政書士）
相談料：無料
※県内在住外国人のための相談室です。

DEC

3日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

4日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
主催：ライフサポート大分

10日（土）日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?

テーマ：「クリスマスと大晦日」

時間：13：00～14：30

場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】

定員：10名（先着順）※予約必要 参加費：無料

TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

10日（土）外国文化理解講座 ～中国の恋愛と結婚～

内容：予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にいながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか??各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう!!

時間：14：30～16：00

場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】

講師：児玉 文玉（中）

予約：不要 受講料：無料

TEL：097-533-4021 E-mail：n@emo.or.jp

10日（土）多文化こどもの福祉講座 第三回「国境を越える子育て支援に学ぼう」

子どもの健全育成のためには、まわりの無関心や偏見の解消と保護者の縁パワーが不可欠です。出口雅子さんを講師に、学校・地域と外国籍児童や保護者の出身地域をつなぐよう開発・工夫された国際理解教育の実践、「外国籍保護者のための小学校案内」作成の背景と過程に学び、大分の学校、地域、医療現場等々での支援の発想や可能性を広げ、できることを考えます。

時間：13：00～16：00

場所：コンバルホール 会議室

講師：ピナツボ復興むさしのネット 出口 雅子

主催：大分人権教育ワークショップ研究会

財団法人 こども未来財団

TEL：090-5085-9860 E-mail：eri-a@k8.dion.ne.jp

13日（火）「私の出会った日本のかたち・日本のこころ」

時間：13：00～14：30

場所：大分キャンパス 本館101教室

講師：和都村企画 代表 ロバート フトソン

入場：無料

主催：別府大学短期大学部大分キャンパス

TEL：097-586-0001

FAX：097-586-0006

20日（火）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

21日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

JAN



7日(土) タガログ語無料相談

時間：13:00~16:00 会場：国際交流プラザ



7日(土) 多文化こどもの福祉講座 第四回「多文化子育てサポーターのスキルを磨く」

多文化共生を実践するためには、知識や技術などの「インプット」と同時に、それを相手方に伝える「アウトプット」の力が必要になります。講座の最終回は、保健医療や福祉、日本語学習支援などの分野で現場活動や人材育成に取り組んでいる多文化共生センターひょうごの北村広美さんを講師に、第三回までに学んだことに加え、さまざまな社会的資源を活用した具体的な支援のプランをグループワーク形式で作成し、発表を通じて参加者で共有します。

時間：13:00~18:00

場所：コンバルホール 会議室

講師：多文化共生センターひょうご 北村 広美

主催：大分人権教育ワークショップ研究会
財団法人 こども未来財団

TEL：090-5085-9860

E-mail：eri-a@k8.dion.ne.jp



17日(火) タガログ語無料相談

時間：13:00~16:00 会場：国際交流プラザ



18日(水) 入国・在留国籍手続無料相談(毎月第1日曜日)

時間：13:00~16:00 会場：国際交流プラザ

主催：ライフサポート大分



21日(土) 日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?

テーマ：「学校と子育て」

時間：13:00~14:30

場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】

定員：10名(先着順)※予約必要 参加費：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：soenke@emo.or.jp



21日(土) 外国文化理解講座 ~韓流ブーム~

内容：予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にいながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか? 各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう!!

時間：14:30~16:00

場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】

講師：カン・キョンミ(韓)

予約：不要 受講料：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：n@emo.or.jp



24日(火)「多文化共生と大分における留学生支援」

時間：13:00~14:30

場所：大分キャンパス 本館101教室

講師：NPO 大学コンソーシアムおおいた 事務局長代理 太神みどり

入場：無料

主催：別府大学短期大学部大分キャンパス

TEL：097-586-0001

FAX：097-586-0006

異文化教室

中国家庭料理教室

内容：中国の家庭料理を作って食べる。また、その料理にまつわる中国の文化を学ぶ。献立については、生徒の要望に沿って決める。

講師：馬 麗英(ば れいせい)

日時：毎月第3土曜日10:00~12:00

場所：大分西部公民館

会費：月1,000円

主催：大分県日中友好協会女性部

連絡先：097-554-0191(柏木)

097-521-7227(清末)

スペイン語・英会話レッスンのチキータ

子供英会話

キッズクラス(5才~9才)

・週1(月4回)40分レッスン

ジュニアクラス(10才~12才)

・週1(月4回)50分レッスン

グループレッスン

・月謝6,000円/1人

プライベートレッスン

・月謝1万~8,000円(初回のみ)

教材費+雑費 1万円(初回のみ)

英会話・スペイン語会話

月4回 50分レッスン

グループレッスン

・月謝1万/1人~8,000円

プライベートレッスン

・月謝12,000~1万円

教材費+雑費 5,000円(初回のみ)

連絡先：080-3905-0787

メール：chiquita.japan@gmail.com

外国語教室 ヤコブの井戸

イタリア語・スペイン語・ポルトガル語

グループ料金(月4回@60分)：6,000円

個人レッスン料金(月4回@60分)：12,000円

・講師はすべてネイティブです。

・映画、料理など文化イベントも定期的に企画!

無料体験レッスンをどうぞ!

連絡先：090-6633-8143



わたしたちの声を聞いてください!

「仕事」

吉武 ロドラ

皆様こんにちは朝と夜が冷え込むこの頃いかがお過ごしでしょうか?あと1ヶ月ほどで年末です。これから忙しい日々が来ます。

忙しいと言えば仕事のことを思い浮かべます。日本大好きな私はもちろん日本人の良いところが大好きです。礼儀正しいところと仕事でとても頑張り屋さんです。でも別の目で見ると違う部分が出るみたいですね。海外に住んでいる友達がある事を私に聞きました…。

日本人は生きるためにお仕事をしていますか?それとも仕事の為に生きていますか?本人が務めている会社に日本人が居て、残業と日曜出勤は当たり前だそうです。友達はびっくりしたそうです。確かに仕事一筋の方も居ますからね。私の場合は仕事をこなしながらそこで良いポイントを見つけるタイプです。たとえば、在大阪・神戸フィリピン共和国総領事長マリアルーデスロペス氏と長崎県知事(中村法道氏)と長崎市長(田上富久氏)との対談に私が通訳人として呼ばれました。



長崎県知事(中村 法道氏)

名誉な仕事をこなす為に景色を楽しみながら長崎に行きました。そして仕事の後に長崎の美味しいものを食べて大分に帰ってきました。あなたはどちらですか…生きる為にお仕事をしていますか?



長崎市長(田上 富久氏)

それともお仕事の為に生きていますか?

INFORMATION

語学交流プログラム Language Exchange Program

外国語を勉強しているあなた!
ネイティブの会話相手を
探していませんか。

語学交流というのは、相手に言語を教えてもらうだけでなく、自分も相手に言語を教えることで「語学交流」となります。

あなたも語学交流してみませんか?

●語学交流の一例は次の通りです:

日本語を勉強している韓国人と韓国語を勉強している日本人がペアになって、1時間韓国語のみで会話して、次の1時間は日本語のみで会話することで、互いに語学交流をしながら言語を学ぶ。

語学交流パートナーの探し方

①おおいた国際交流プラザのホームページの掲示板に書き込みをして探す。

<http://www.oitaplaza.jp/japanese>

※英語圏、または中国語圏の相手を探す場合には、英語版、中国語版ホームページの掲示板にも書き込みをすることをおすすめします。



②おおいた国際交流プラザにあるメッセージボードに、記入した専用の用紙を貼って探す。

イベントの報告 『世界がもし100人の村だったら』

皆さんはメールで広がった「世界がもし100人の村だったら」を知っていますか?世界がもし100人の村だったら、14人は栄養が足りず、その内の1人は餓死寸前です。しかし、残りの86人中14人は肥満なのです。世界にはこのように目に余るほどの格差があり、自分達の生活がいかに恵まれているのか、痛感させられる内容を記しているのが、この「世界がもし100人の村だったら」。この文章を基にした体験型ゲームのイベントを10月9日(日)午後3時30分から大分県立芸術文化短期大学との共催で開催いたしました。このイベントは、大分市とJICA九州主催の「おおいた国際協力啓発月間in2011」に合

わせて実施したイベントでもあります。「知る」ということも国際協力の第一歩です。参加者の方々には、世界の現状を身近に感じてもらえたと思うので、今回のイベントをきっかけに、今後さらに世界に目を向けていただけたらと願っております。



おおいた国際交流プラザ

La Estación 34

発行日 平成23年11月30日(奇数月未発行予定)
編集・発行 (財)大分県文化スポーツ振興財団
国際交流課
〒870-0029 大分市高砂町2番33号 スペース ビー
iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be内
開館時間: 9:30~19:00
閉館日: 日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週
の土曜日※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052
E-mail: in@emo.or.jp Twitter: @oitaplaza
URL: <http://www.oitaplaza.jp/>